

第 40 回「精神的な豊かさ」(2013/12/23)

場所：Cafe ALBA青山

司会、文責：野田

参加者：14 人

要約：精神的な豊かさについて、肉体的な豊かさや経済的な豊かさと対比し、欲求を満たすことや、精神の安定について議論しました。

内容：

1. お題の説明

- ・ さろん哲学では、第 5 回に「こころの豊かさとは何だろうか？」(2011. 1. 12 堀越司会)というお題を取り上げました。それから 2 年以上たち、我々を取り巻く状況が大きく変わったため、お題を少しだけ変えて再び取り上げました。

2. 精神の豊かさとは何か

- ・ 気持ちや心が満足すること。今の生活に納得すること。
- ・ 自由があること。やりたい活動が出来ること。
- ・ ゆとりがあること。餓死に直面するような状況では精神的な豊かさは二の次になってしまう。余裕がないと、自分を振り返る時間がなく、自分への関心がなくなり、今のままでいいのかと考えることが出来なくなる。ゆとりを持つにはある程度の生活の安定が必要である。
- ・ 一時的な快樂は一瞬で終わるため、また追い求め、不足するように感じる。持続できること。結果を気にせず、過程を楽しむこと。安定していれば、悪い結果を受け止めることが出来る。
- ・ 肉体的な欲に振り回されないことが精神的な豊かさにつながる。
- ・ 子供の時は、どんぐりやだんごむしのような他愛のないものでわくわくできた。大人になって関心の範囲が狭まり、精神的な豊かさが減少した。
- ・ 大人になって、出来ることが増えて、精神的に豊かになった。
- ・ 我々自身の状態だけでなく、我々が置かれている環境も、精神的な豊かさに影響する。

3. 我々が置かれている環境

- ・ 物質的には豊かだが精神的には貧しいことがある。
- ・ 快樂が刹那的である。
- ・ 人とのつながりが薄く、さみしい。交流の幅がせまく、閉塞感がある。

4. どういった環境が精神的な豊かさに結びつくか

- ・ 山村のような孤絶した環境の方が、選択肢が限られて、精神的に豊かになる。外を知らないため、あるもので満足する。金がたくさんあっても使いようがない。周りをみないことで、欲が出ないようにする。選択肢があっても実現できないと豊かでない。
- ・ 孤絶した環境では、外に出ていこうとし、精神的には豊かにならない。

- ・ 金は楽しさに結びつくし、金が増えること自身が楽しい。宝くじは楽しい。
- ・ 環境が精神的な豊かさに結びつくわけではない。同じことをしていても、楽しさはその時の状況によって変わる。友達とわいわいしながら食べれば、まずくても満足できるかもしれない。親しい人と何かを共感できることが大切である。

感想：参加者の一人でボランティアをされている方が、ボランティア活動の対象になっている人から感謝の意を表された時に精神的な豊かさを感じると発言されていました。他者への働きかけの結果得られる精神的な豊かさについての貴重な言及でした。

「豊」の元々の意味は、農作物が多く収穫されることだそうです。農作物の持つイメージが議論に影響したのかも知れません。